
幻夢新大東亞戦争

旋風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幻夢新大東亜戦争

【Nコード】

N05860

【作者名】

旋風

【あらすじ】

時わ20XX年…なつ訳ないですよね(汗)すみませんいきなり北の拳やっちゃいました(汗)悪しからずm()m
でわとりなおして1944年史実でわ太平洋戦争がおころうとする
が本作品でわすでに戦争が勃発していた…

第一話 新連合艦隊（前書き）

ここで新連合艦隊の編成を紹介しておきますね（＾Ｏ＾）

〔第一艦隊〕

戦艦・神月・榛名、鹿島、三月
空母・瑞鶴、五月雨

軽空母 桜月・三河、矯風

重巡・筑波、松尾

軽巡・夏風

駆逐艦二十二隻

〔第二遊撃艦隊〕

戦艦・金剛 扶桑

軽巡・照海 照美

軽空母・春馬 神海

駆逐艦十三隻

なお今回第二遊撃艦隊を四艦隊として参加の為に艦隊隻数を減らします！

〔航空艦隊〕

重巡・松島、鳥海、愛宕

空母・赤城、瑞龍、加賀、
炎龍

軽空母、信濃丸 吉野川

駆逐艦三十二隻

総艦隊隻94隻

艦上機数

零戦164機 艦爆230機 艦攻144機

以上の陣容で米国との開戦に挑むのであります！

これとわ別にです。陸軍部隊が輸送船団で真珠湾を目指します！

陸軍部隊の編成は四個師団編成で約二十五万人です！

今ここに長きに渡る超大戦が幕をきつておとされようとしているのです！

第一話 新連合艦隊

どうも初めまして 旋風です！

この度初めて小説を歴史的な大東亜戦争をモチーフに完全オリジナルで書かせて頂く事になりました！

本作品は完璧オリジナルで人物名など所々本物をつかっています
(・・・)

皆さんが知っている大東亜戦争とわかるきり違う大東亜戦争を描きますのでどうぞお楽しみ下さい あとたまぁに現代とかぶってしまいかもしれませんがそこは皆さんの広い心で見守ってくださいね もちろん感想や意見等あれば受け付けておりますので沢山お待ちしております！まだまだ新兵ですががんばります！大和魂！

第一話〜新連合艦隊（後書き）

次回色々なキャラを出しつつ出陣いたしますね（＾Ｏ＾）
お楽しみに

オリジナル大戦記（前書き）

呉軍港にわ帝国海軍艦隊が停泊中である…

その中に一際目立つ戦艦がいた…その名わ「神月」その艦橋に一人の男が立っていた…

「長官！こちらにいらしてたんですか。」

と参謀長の関本大佐が声を掛けた。

「すまん・すまん。ついつい来てしまったよ。」

「まあ気持ちわ分かりますよ。なんせ神月わ米国との開戦の為に作られた艦隊の旗艦ですからね」

と関本が話掛けたその本人を紹介しておこう…

名前わ山本五十六大将大日本帝国海軍連合艦隊司令長官である。

今回陸上にて指揮をとる予定だったのだから天皇とまわりにしつつこく前線での指揮を！と言つのでついに大望が叶い戦艦「神月」に乗艦することになり司令長官兼第一艦隊司令官になったのである。

オリジナル大戦記

どうも初めまして 旋風です！

この度初めて小説を歴史的な大東亜戦争をモチーフに完全オリジナルで書かせて頂く事になりました！

本作品わ完璧オリジナルで人物名などわ所々本物をつかっています
(´・`・´・`・´)

皆さんが知っている大東亜戦争とわまるきり違う大東亜戦争を描きますのでどうぞお楽しみ下さい あとたまぁに現代とかぶってしまいかもしれませんがそこわ皆さんの広い心で見守ってくださいね
もちろん感想や意見等あれば受け付けておりますので沢山お待ちしております！まだまだ新兵ですががんばります！大和魂！

オリジナル大戦記（後書き）

今回わ一発目なので短めにしました（汗）
次回からわ本格的に開戦に向かっていきます。

あと色々紹介しながら進めていきますね

第二話〜暗闇の刺客（前書き）

真珠湾沖で哨戒任務に付いていた潜水艦ニコルその日わ運悪く真珠湾沖わ濃霧に覆われていた

そこに見張り員が発見した物とわ…！

第二話 暗闇の刺客

12月2日連合艦隊わ柱島・呉軍港をそれぞれ出港し一路真珠湾へと進路を取った…いきなり飛びます…悪しからずm(――)m

12月8日0430真珠湾沖

「おいマイク！見るあれわ一体何だ！？」

米国潜水艦ニコルの見張り員が同僚のトムに話し掛ける！

「なんだよマイク、美人のお姉ちゃんでもいたのかい？（笑）」
軽くからかうトムにムツとくるも押さえてトムに語りかける。

「あの山みたいにデカイモノわ一体何なんだ？」

「どれ見せてみるマイクわ一応艦長に知らせてくれ！」

トムに言われるとマイクわ艦長のもとへ向かう。

そして改めてトムが双眼鏡を覗くと…

「な・何なんだあれわ！しかも何という数なんだ…信じられない…」

トムわ啞然し声もでないまま双眼鏡に釘付けになっていた…すると後ろの方に何かがはためいていたのでそれを確認するために双眼鏡を向けたするとそこにわ…

「あ・あれわレッド、ボール…！！ジャップだジャップの艦隊だ…！」

トムわいそいで警報をならし館内電話で艦長に伝えた…しかし時わすでに遅かった…

トムの報告を聞いたニコル艦長ゲイラ大佐わハワイの艦隊司令部へ緊急伝を打とうとしたその直後！

バシャーン

ドグアーン

潜水艦ニコルの周り水柱が上がった…！

「どうしたんだ!？」

ゲイラ大佐わ隣の副艦長シン少佐に聞いた…

「艦長! 敵艦より発砲! 距離6500! 至近弾です!」

「被害状況わ! 命中弾はあったのか?」

シン少佐に問いかけた…! 「第三ドックに浸水! 負傷者無しです!

…! 敵艦第二射発砲! 回避間に合いません!」

「総員何かにつかまれえ〜!!」

その瞬間潜水艦ニコルに砲弾が命中した…

ドカー〜ン バア〜ン

その直後に潜水艦ニコルわ大炎上正面から沈み始めた…

「シン… 少佐… 総員退艦命令を… い… そ… げ… ……」

バタン…

その言葉を最後にゲイラ大佐わ息絶えた…

そしてシンわ退艦命令をだすものすでに遅く米国潜水艦ニコルわ乗員87を乗せたまま太平洋戦争の最初の戦死者となり太平洋の藻屑と消えた…

この最初の戦闘で緊急伝を打てなかったため太平洋艦隊指令部わ歩みよる帝国海軍連合艦隊に築くことなく一日わ過ぎていった…

第二話〜暗闇の刺客（後書き）

感想お待ちしております（u|u）o”

第三話 陽動作戦（前書き）

ついに動きだした時間そして帝国海軍運命わ刻一刻と時を刻み始めた…

第三話 陽動作戦

12月8日0445

ミットウエー沖合

この日朝方早くミットウエー基地のレーダーが不審な艦影を捉えた…
「何なんだろう？一応指令部につたえとくか。」

レーダー員が指令部に伝えすぐさまB 17が偵察に向かった…。

「どうせ今日も漁船じゃないんですか？（笑）」

「油断大敵だぞもしジャップだったらどうするんだ！しかもっかり見張れ！」

会話わ何回かやりとりされしばらく飛んでいると航跡らしきもが飛び込んできた…！

「機長！左前方距離10000の位置に航跡多数！」

そう偵察員から報告を受け付けて驚いた…！

「何！一隻じゃないのか？もう少し接近してみよう！」

そう言つとB 17が航跡を追って近づいて行つた…

そうして機長が双眼鏡で確認したその時だった！

「おい！あれわ漁船なんかじゃないぞ…！艦隊だしかもあの旗色わジャップだ…！至急基地に緊急伝を打て！」

機長が発見したものとわまさに今回囮艦隊として任務についていた帝国海軍第二艦隊であつたのだ…！それを聞いて偵察員が慌てて報告伝を打つ…

ミットウエー基地

司令官偵察機より入電！

「よし読み上げる！」

「ハッ！」

「敵艦隊ヲ発見ス！陣営ヲ戦艦5、重巡ラシキモノ2、駆逐艦多数

…」

一連を読み上げると司令官のマックス中将が質問した「報告がそれだけか？」

すると通信参謀わ…

「上がっているのわこれだけで以後わ途絶えました…」

そう報告するとマックスわ

「何！？途絶えただと！空母わいなかったのか？」

さらにマックス中将わ…

「撃墜されたか…仕方あるまいこの際詳しい敵情わわからんが敵が来てる事にかわりわない！出せるだけの航空機と艦艇をだせあと太平洋艦隊指令部にも報告だ…！ジャップがきたとな！」
そう参謀につたえると通信員に伝えた…

報告が太平洋艦隊指令部に届いた時にわ遅く

こうして作戦としてわ成功を収め米国わ山本大将のおもわくにはま
つていくのであつた…

米国に刻一刻と悪夢の時がせまりつつあるのであつた…！

第三話 陽動作戦（後書き）

なかなか難しいですね小説わ…（泣）
ですか頑張りますので応援感想お願いします

第四話、帝国海軍の狙い（前書き）

今回わ少し作者旋風登場しまする

第四話 帝国海軍の狙い

緊急伝を聞いたニミッツ大将わミットウェーに向けて急ぎ救援艦隊を編成した…！

それがこれである！

ミットウェー救援艦隊〔司令官キング中将〕

戦艦アリゾナ カリフォルニア メリーランド

空母レキシントン エンタープライズ オクラハマ

重巡ワシントン シアトル ブッシュ クリントン

他潜水艦十五隻 駆逐艦二十二隻の編成である…

航空機わワイルドキャット104機 ドントレス97機 P 40
100機である

「おのれジャップめ！まさか向こうからくるとわな猿の分際で捻り潰してくれるわ…！」

ニミッツが怒りをあらわにしているところ…

太平洋の上で偵察機からの報告をきいて笑う一人の男がいた…そう 帝国海軍連合艦隊司令官山本大将である！

「ニミッツめまんまとひかかりおって（笑）艦隊の半分以上をだすとわそうとあわてておるな（笑）」

すると隣いた参謀長の関本大佐がつぶやいた…

「しかし山本長官今回の作戦作者の都合小説とわいえうまくいきまくりですな（笑）」

作者「はいはいどうせ都合ですよ（泣）普通そこでそれ言っちゃうかな…」

山本長官「まあ関本大佐そう言わんでやってくれ（笑）都合とわいえすばらしいでわないか上手くいけば帝国わ安泰なんだからな逆に感謝しなければ！」

なんか山本長官にそう言われるとやる気がでる単純な作者であった

（笑）

話がそれたのでそろそろ帝国海軍の狙いを話ておきましょう（笑）あつ…！でもニミッツ大将にわ内緒ね ばれるといけないから（笑）

それじゃ話ますかね！まず今回わ第二艦隊が囷となりミットウエーに進行します。それでそれを知った太平洋艦隊がミットウエーに向かいスキが生じま真珠湾を占領してしまつたのです（笑）その為陸軍部隊がいるのですが実は陸軍部隊も分けてるんです（笑）

なぜかと言うとミットウエーも占領するつもりなんです 真珠湾を占領し艦隊部隊のみでミッドウエーへ向かい第二艦隊と連呼して壊滅させようというのです！史実なら輸送に困るのでわないかと言われてますがここが都合小説の良い所で実はもう長距離輸送機を始め海上輸送路も確保してあるんです（笑）

そうして畏にはまったら太平洋艦隊を見て山本長官わ指示を出したのであつた…！

「航空機部隊全機発艦準備！急げ！」

あと艦艇部隊わ砲撃準備！

陸軍部隊準備できしだい待機！」

こうして戦火わふりおとされた…！

第四話 帝国海軍の狙い（後書き）

次回わ開戦に突入します。まだまだ新米ですが完結めざしてやり遂

げます（笑）（＾o＾）

よろしくお願いします。（ゝ）

第五話 男たちの決意（前書き）

今回は発艦前の決意を書いてみました

上手くはないですが見てください（<・>）y・

第五話 男たちの決意

0845 第一次攻撃隊発艦前

瑞鶴飛行甲板上…

パラパラパラ…

飛行甲板の上では第一次攻撃に参加する飛行隊の飛行機が軽快なエンジン音をたてて待機していた…

防空指揮所

第一次攻撃隊総隊長沖田大佐が部下たちに最後の言葉を掛けていた…

「いいかお前達！この一戦の初陣に参加する事を各各末代までの誇りに思え！

我が第一次攻撃隊はこれよりあの憎き米国に鉄槌をくらわすべく一敵必中の精神を胸に刻み大日本帝国の繁栄の為に戦う！ いい言葉はかけられぬが一言だけ言っ！必ず生きて皆で帰るうではないか！」

そう沖田大佐が言っくと皆の士気は一気にあがった！

「よし！どいつも俺の自慢の部下らしい男前の面だ（笑）！

では皆解散！幸運を祈る！」

その一言を合図に各愛機へ散っていった…

そして第一次攻撃隊

零戦82機 艦爆隊115機 艦攻隊72機は開戦の火蓋をきって
落とすため真珠湾へと向かった…

そして連合艦隊の戦艦群も今か今かと主砲全問を真珠湾に向けて着
実に真珠湾へと近づいていた…

第五話、男たちの決意（後書き）

次わ真珠湾攻撃です（^^） /

\（^^）

第六話〜トラ、トラ、トラ（前書き）

ついに攻撃した第一次攻撃隊！

第六話　トラ、トラ、トラ

1000　ハワイ海岸沖

「沖田隊長！島が見えてきました！」

制空隊の沖田の二番機を務める坂井三郎一飛曹が無線機で知らせてきた…

「了解だ！坂井よくやったぞ！さすがは航空隊きつての目の持ち主だな！敵戦闘機のほうも見張ってくれよ！」

沖田は坂井に感心しつつ自分も見張りについた。

ハワイ指令部

その頃ハワイ太平洋艦隊司令官では第一次攻撃隊269機が近づいているのに気付く者さえいなかった…正確には気づけなかったのだ…その理由は3日前に帝国陸軍の特殊工作員がハワイに潜入…レーダーを始めハワイ全土の電気系統に細工をしてみたのでレーダーで発見できないでいるのだ…

1015　太平洋艦隊指令部

「くそ！レーダーが使用できないのでは敵が攻めてきてもわからんではないか！偵察機は飛ばしてはいるがどうも心配でならん…！」
「ジャップがこなければいいが…」

そう司令官のニミッツ大将が言うと参謀長のレーモンド大佐が口を開いた…

「確かに今ジャップにでも来られるといくらブリキに猿とはいえ今ハワイにいる半数の戦艦、空母等は改装中で航空機も本土から来たばかりで…

どうも稼働率がよくありません…」

「まあ…そのとうりだ…キングにミットウエーを任せたが

万が一負けでもするか間に合わなかったら戦力的に大きく落ちジャップはミットウエーから航空機でハワイを狙う事も可能になる…」

ニミッツ大將は困っていた…それもそのはず日本は長距離輸送機や海上輸送を可能にしており半永続的に維持する事ができいつでもハワイを狙えるからだ…

ニミッツはコーヒーを片手に空を見上げた…

1100 真珠湾

第一次攻撃隊は遂に太平洋艦隊の停泊する軍港を発見した…！

発見した沖田大佐はバンクして「突撃」の合図をおくった…！

その直後連合艦隊司令官山本大將の元へ一通の電報が届いた…

「トラ、トラ、トラ、我レ奇襲二成功セリ…！」

それを見た山本大將は「ついに始まったな」と呟いて命令をだした

…！

「全艦出撃！」

こうして戦いの幕は切って落とされた…！

大日本帝国の繁栄生存を掛けた戦いが…

第六話 トラ、トラ、トラ (後書き)

次回真珠湾を爆撃します (^^)

第七話 真珠湾攻撃その？（前書き）

ついに攻撃が開始！

無事占領し次に駒を進める事ができるのか…

第七話 真珠湾攻撃その？

真珠湾 上空

まず制空隊、爆撃隊は艦爆と飛行場攻撃隊とのチームに別れ戦爆隊はまずホイラー飛行場へと向かった…

この時敵戦闘機との遭遇に警戒していたが完全奇襲に成功したため一機も上がってこなかった…

ホイラー飛行場

「まったく！！米国もジャップにやられたい放題だな！リーダーをやられるとはまぬけな話だよ…まるで米国の知恵は猿ですかって思いたくなるね！」

こんななら一層の事何となく空を見上げてジャップを発見しましたって言うのが高確率だぜ（笑）」

一人グチをこぼす飛行隊長のスペクター大佐がふと空を見上げた瞬間だった！！

なんと目の前にいきなり爆弾が降ってきたのだ！

スペクター大佐は避けようとしたが手遅れで跡形もなく消し飛んだ…

その直後に警報が鳴り響いたが既に遅かった…

「対空戦闘急げ！戦闘機隊急ぎ迎撃せよ！」ホイラー飛行場司令の
トंक少将は命令をだすが間に合わずトंकの目につくのは高角砲
の弾幕は薄く地上撃破された航空機をみてトंक少将は呟いた…

「おのれ…ジャップめ！」

戦闘開始一時間三十五分後…ホイラー飛行場は202機の損害…燃
料タンクは全て炎上爆破！

基地隊員2553名の死者をだし壊滅した…

なおこの直後帝国海軍連合艦隊は軍港目掛けて砲撃を開始した…

電光石火の如く日本は真珠湾を襲った

次なる目的はカネオ飛行場だ…

カネオ飛行場ではホイラー飛行場壊滅をしり対空戦闘を開始し戦闘
機52機発進させ待ち構えた…

第七話、真珠湾攻撃その？（後書き）

真珠湾攻撃を何回かに分けて連載します（＾Ｏ＾）次わその？です！

お楽しみに

第八話、真珠湾攻撃その？（前書き）

ついに始まった戦闘最初の犠牲者が…

第八話 真珠湾攻撃その？

カネオ飛行場

「くそ！ ジャップめ一体どこから湧いてきたというのだ！」

カネオ基地司令のランス中將が激怒していると、そこへ参謀のトム中佐が慌てて入ってきた…！

「司令官間もなくジャップがカネオ飛行場へきます！ なおホイラー飛行場のスペクター少將は…戦死いたしました…」

そう参謀が言い放った瞬間見張り員が叫んだ！

「敵機来襲！ 数100機以上！ 真っ直ぐ向かってきます！」

すぐに警報がなり各高角砲座からは濃密な弾幕がカネオ飛行場を覆った…

沖田機

「さすがに連続奇襲は無理だったか…まあいいことも潰すだけの事だ！」

すると二番機の坂井一飛曹が無線機で伝えてきた…！

「敵機発見！二時の方向！距離6000！機数…50機余り…！」

それを聞いた瞬間沖田は全機に命令を出した！

「全機応答せよ！こちら沖田大佐だ！制空隊は敵戦闘機隊と戦闘をしつつ爆撃隊を援護支援する！なお爆撃隊は高度をとり次第各個爆撃を開始！投弾後機銃掃討を開始せよ！以上だ武運を祈る！突撃だ！」

その言葉を筆頭に制空隊の零戦は戦闘に突入した…

「さあ俺的はどいつだ！叩き落としてやる！」

すると一機のワイルドキャットが赤城隊米松飛二飛のもとへやってきた…

「よし！まずはお前からだな！」

米松は軽く旋回し後ろに回り込んだ！照準機一杯にとらえたワイルドキャットめがけて新型改良され備えつけられた三十二ミリ機銃を放った…！

ドドド… スパスパ

ボワ…

米松の放った機銃弾は見事翼をもげとりエンジンに火を付けた…

そしてそのまま海へと消えていった！

「よしまずは一機！次はどいつだ！」

そう米松が敵機を探し求めていると無線機から沖田大佐がさげんだ！

「米松！上だ！避ける！！」

米松は上を確かめたとすると敵機が機銃を放った後だった。米松は慌てて回避行動をとったが。遅く零戦は火をふいた。しかし米松機はまだ落ちていなかった。しかしギリギリでもあった。

「米松大丈夫か！しっかりしろ！」

「隊長：すみません。やられましたわ。もう俺は駄目です。どうせ死ぬならこの身を屈して今後の日本の為に華さかせます！隊長今までありがとうございます。」

その言葉を最後に米松は格納庫に突入していった。

享年21歳の若さであった。

「米松！！！！おのれ許さんぞ！米松！必ず仇をうつてやる！」

その数分後敵機は全滅したこの戦闘で第一次攻撃隊制空隊は三機の犠牲を出した。

米松は沖田大佐が入隊当初から可愛がっていた隊員であった。

沖田大佐を始め他の列機たちも悲しみ米國を憎んだ。

そして皆わこの戦争に勝つ事が最大の仇を打つ事だと深く胸にきざんだのであった。

その頃爆撃隊は制空隊の活躍により爆撃コースに対空弾幕をかわしつつだが侵入していた！

爆撃隊隊長江草機

「制空隊の方は終わったみたいだな！よし！！さっさと片付けるぞ！！！」

すると後ろの吉田飛曹長が

「隊長もう少し左です！」

よし！そのままそのまま…今です！」

それを合図に江草が叫んだ！

「テッー！」

すると胴体下の五百キロ爆弾が滑り落ちるように飛行場に落ちていった！

それを合図に列機も次々に投弾を開始！カネオ飛行場は瞬く間に炎につつまれ全身を焼かれながらもがく人爆弾に吹っ飛ばされた砲身様々な残酷なシーンが江草の目に飛び込んできた…

「すまない…これは戦争なんだ…許せ…」

そうしてカネオ飛行場は散々爆撃をくらい機銃掃討をくらって壊滅した…そして第一次攻撃隊は母艦へてかえっていった…

連合艦隊旗艦神月艦橋

「山本長官！やりました！第一次攻撃隊成功です！」

「うむ！では関本大佐戦果報告をたのむ！」

山本長官からそう言われると関本大佐は読み上げた：

「まずホイラー飛行場は壊滅！202機を地上撃破！燃料タンクは全て破壊！次は力ネオ飛行場も壊滅50機余りと抗戦しましたが全て撃墜！なお地上撃破は…解りませんが全て撃破したそうです！」

それを聞いた山本長官は次に見方損害機を聞いた：

「見方の損害なのですが零戦3機…爆撃隊7機です…！なお制空隊米松一飛曹は敵弾を受けた後炎上した機体で単身突撃し散華したそうです…みごとな最後だったとの事です！帝国海軍らしい最後でした！」

それを聞いた山本長官は一言：

「総員に繋げ！真珠湾方向に向けて敬礼とな！」

そうして山本長官は米松の思いを深く胸に刻み真珠湾軍港を睨んでいた：

そうして第二次攻撃隊が発進し第一次攻撃隊艦爆隊と連携して太平洋艦隊を完膚なきままに叩くため戦艦群と共同攻撃をするのであった：

第八話、真珠湾攻撃その？（後書き）

次回も力作にしますのでお楽しみに（＾o＾）

第九話 真珠湾攻撃その? (前書き)

すこし長くなりますが真珠湾攻撃完結編なのでよろしくお願ひしま
す 〳 (; (

第九話 真珠湾攻撃その？

太平洋艦隊指令部

「ニミッツ大将！ホイラー飛行場及びカネオ飛行場壊滅致しました…！なお敵軍は上陸を開始！」

するとニミッツ大将は…驚いた様子で呟いた…

「そんな馬鹿な…一体どうやって気付かれずにやってきたと言うのだ…！あり得ない…！今飛行場をとられると空母には改装修理で航空機を両飛行場に揚げたばかりだぞ！それもやられたとなるとハワイから航空機が出せぬ…！」

もはやニミッツには艦隊決戦しかないと思っていた…しかし在泊艦隊のうち動けるのが戦艦はネバダだけで後は重巡のトロイとカイム後は駆逐艦ぐらいである…

この状況を見て参謀長はニミッツ大将に提案した！

「ミットウエー 救援艦隊を呼び戻しましょう！偵察機を飛ばせば何とかかります！」

ニミッツは納得したように答えた…

「そうするしかあるまい…ミットウエーには持ちこたえてもらおう…」

そう言い放った直後…！

バシャーーン バシャーーン

ドグアーン バコーン

軍港に突如水柱があがり停泊中の艦隊群が炎上し始めた！

「どうしたんだ！何が起こったんだ！」

ニミッツが参謀長に聞くと驚くべき返答が返ってきた…！

「敵艦隊出現！砲撃を開始した模様！初弾から命中弾ができました！」

それを聞いたニミッツはただ呆然立ち尽くす以外になかった… その訳は…

「どうす…今ジャップにこられたら終りだ…航空機だって空母改装中で全て陸に揚げてるんだぞ…！しかもその揚げた飛行場が壊滅今太平洋艦隊には航空機は一機たりとも居ないんだ…」

そしてニミッツは次に参謀長に動かせる艦隊隻数を聞いた…すると参謀長から返ってきた返答は…

「申し上げます…！稼働可能な艦艇は…戦艦はネバダのみで後は重巡トロイとカイクム…駆逐艦は10隻余り…」

ニミッツ大將は愕然としたいくらミットウエーから救援艦隊を呼び戻しても間に合わないと悟ったのだ…ジャップの陸軍部隊も上陸を開始している…陸は米国陸軍部隊、海兵隊等がいるが艦隊決戦は無理である…

そうニミッツが思っているとさらに追い込むような報告が拳がった…

「敵機来襲！！距離5000！100機以上はいます！！」

「なに！糞！！何て最悪なタイミングなんだ！参謀長直ぐに艦艇を出撃させる！それから陸軍部隊には上陸部隊を排除させる！あと対空戦闘を発令！！急げ！ミットウェー救援艦隊にはなるべくいそがせる！」

第二次攻撃隊

「よし！軍港が見えたな！全機突撃せよ！」

そう叫んだのは第二次攻撃隊隊長土方大佐であった！

なおこの戦闘は制空隊も来ていたが敵戦闘機は壊滅したため敵陸軍部隊を機銃掃討するため別行動をとっていた…

土方機

「派手にやってるな！戦艦の主砲も新型魚雷もなかなかの威力だな！みんな俺たちも負けてはいられないぞ！」

そう言い放つと全機は勢いよく停泊中または出撃してきた敵艦目掛けて突撃していった…

連合艦隊旗艦神月

「よし！砲撃中止次に砲撃目標は…現在移動中の敵陸軍部隊を叩く標準急げ！」

そう言うと神月の50センチ四連装三基×12門が仰角を変えて砲撃準備にかかった…他の艦隊もそれに続いた…

戦艦ネバダ艦橋

「対空戦闘用意！主砲は標準出来次第各個に撃て！」

艦長のカノン大佐が告げた直後だった

ドグアーン ドグアーン

鈍い音とともに船が揺れた…

「一番二番主砲塔に被弾！使用不可！左舷に魚雷三命中！浸水！」

「なに！」

なおも周りを含めネバダにも更に爆撃隊による攻撃がはじまった…

「ダメコン急げ！他の艦隊に入電！陣形を崩すな主砲は撃ちまくれ
怯むなと伝える！」

そうカノン大佐は伝えたが周りの被害は激しくドックに入っていた艦隊にまで被害が及んでいた…

「艦長！駆逐艦は壊滅！ネバダは浸水率が60%を越えました！」

そう通信参謀が伝えた時だった一機の艦爆が放った560キロ爆弾が艦橋に直撃した…

太平洋艦隊指令部

「救援艦隊はまだなのか…このままではもたんど…」
すると参謀長が…

「長官！陸軍部隊もゼロの攻撃隊とジャップの艦隊による砲爆撃で被害が続出しております！」

「くそ！」

そのころ帝国陸軍部隊はホイラー飛行場を占領してカネオ飛行場へと進んでいた…

ハワイ攻略部隊

「山下司令官！カネオ飛行場制空隊により敵陸軍部隊を追い込んでいる模様です！」

すると山下司令官は…

「よし！砲兵の徳山隊長にカネオ飛行場ではなく太平洋艦隊指令部に向けて砲撃をさせろ！機甲連隊は前方に展開！設営隊はホイラー飛行場を整備出来次第カネオ飛行場へ向かわせる！」

43連隊は…太平洋艦隊指令部に向え！」

この後カネオ飛行場は無血占領を成し遂げた… 太平洋艦隊指令部

「なんとか敵攻撃隊は引いたが…」

言葉を濁したニミッツの隣で参謀長が損害を報告し始めた…

「司令官…損害を報告致します…艦艇はハワイ在泊艦隊62（駆逐艦50隻含む）隻座礁もしくは沈没…陸軍部隊は戦死15万人以上他は捕虜になりました…」

それを報告するとニミッツ大將は…

「終りだな…救援艦隊は間に合わなかったか…救援艦隊に伝える本土へ逃げると…ハワイは陥落したと…」

それだけを言い残すとニミッツ大將は黙り込んで引き出しからとりだした拳銃で自決した…

それを見届けた参謀長は部下に伝え白旗を揚げた…

こうして真珠湾は太平洋艦隊の完全なる敗北で幕を閉じ米国本土にダメージをあたえたのであった…

なおいきなりなのだかミットウエー救援艦隊は辛うじて第二艦隊と航空艦隊により虜獲され本土に帰る事ができなかった…

この戦いで日本は太平洋艦隊を壊滅させ戦艦3 空母3 重巡4
を手にいれ米国は艦隊72隻を失い22万人以上の死者 捕虜をだ
した…

連合艦隊旗艦神月

「やったな…これで大望への一步が踏み出せる！大本営に伝える成功したと！」

それを伝えると山本は海を見つめた…

ホワイトハウス

「何て事だ！太平洋艦隊が猿のブリキに壊滅させられたと言っのか！ありえん！」

ルーズベルトは怒っていた…

「だいたい艦隊を失い今後どう戦うというのだ…！」
ルーズベルトはこまりはて直ぐ様新艦隊計画を立案し発動させたのであった…

同じ頃連合艦隊が太平洋艦隊艦艇を持ち帰りしだい改装して新しく竣工させ新戦力として使う計画をすすめていた…

第九話 真珠湾攻撃その？（後書き）

次回新戦力兵器をいきなり2年後から始まる設定で紹介いたしま
す > m (| m <

第十話　世界が向かう先

真珠湾攻撃から2年…世界は大きく動いていた…

帝国海軍は西海岸への攻撃を辞め、虜獲した艦隊を曳航して本土に帰った…第一艦隊と陸軍部隊を置いて…

この不可解な動きにアメリカを含む軍事同盟国のフランス、イギリス、ドイツはこの2年の間に結束を深め、強敵日本を倒すべく、今一度新艦隊計画を始めて、四カ国海軍連合をつくり、陸軍部隊では中国を始め日本の占領国を奪う作戦を立てていた…

しかしながら日本も潜水艦を始め、戦艦、技術航空機にいたる全ての技術を独自に開発し、物量こそ及ばないが、技術では軍事同盟をはるかに凌いでいた…

ホワイトハウス

「一体どうするんだ！今では日本は強敵以上の存在だ！」

「我々があるだけの艦艇をだし、新艦隊を出せば数はそろつが…熟練度が…」

ヒトラーとイギリス新大統領のヒクソンは、ルーズベルトに問いかけた…

「二人の言う事は良く分かる…しかしこの2年私達は何もしなかった訳ではないだろ？新艦隊計画を惜しみなく続けてきた！陸軍部隊も熟練を上げ準備を進めているではないか！後少しの所まできてい

る！取られた国はまた取り返せば良いのではないのかな？」

するとヒトラーが口を開いた…

「確かにそうだが…日本の情勢がまったくわからん…分かっているのは膨大な石油資源を手にいれ様々な技術を改革していると言う事だ…」

するとヒクソンはルーズベルトにある事を問いかけた…

「ルーズベルトよ…日本には新型戦艦があると聞く…」

「確かに…まだ性能的なものはわからんが侮れんな…」

こうして会議は続いたが結局なにも進展しないまま終わった…

この頃日本では続々と艦艇が竣工し陸軍部隊もイギリス、フランス、ドイツを想定またはアメリカ本土を想定し訓練しまだ数を増やしていた…

そして日本の御膳会議では本格的な作戦結構を一年後の1945年12月8日に決定した…作戦命は…《菊水作戦》である…

こうして日本と軍事同盟は今までにない大大戦に駒を進めていった…

2年前に連合艦隊が西海岸に攻めなかったのは補給ができなかった

と思われているがこの小説ではまた別の目的があるのではないかと
思つ…それは読者のご想像にお任せいたします…> m () m <

第十話、世界が向かう先（後書き）

次回は新艦隊海軍編を書きます（＾・＾）

第十一話 新艦隊（前書き）

ついに駒がそろった帝国日本！

第十一話 新艦隊

1945年1月2日帝国海軍秘密基地

ここには新艦隊計画の完成を待ちわびていた帝国海軍の幹部達がき
ていた…

天皇もきている…

「とうとうこの時がきたのだな世界を相手に総力を挙げて戦う時が
！」

米内首相がそう言うと山本大将は一言いった…

「ええついに世界連合とこの帝国海軍が交わる時がきたのです！今
では一抹の不安すらありません！なんせ新型艦を始め寄りすぐりの
技術をついやしたんですから！」

すると天皇が山本に聞いた…

「山本…確かにすごいではないか！帝国日本の繁栄のために尽力を
つくせよ！」

作者「まあこの編にしまして（笑）今回竣工した新型改装艦艇と長
くなりますが新艦隊編成を紹介します（^o^）」

《戦艦》

アリゾナ
鬼怒

全長 280 m

全幅 40 m

排水量 75000トン

速力 30ノット

兵装

50センチ3連装3基9門

18・5センチ連装砲2基

12・7センチ高角砲9基

20ミリ連装機銃10基

装甲板 450ミリ

乗員 3500名

搭載機 3機

カルフォルニア
鬼島

全長 265 m

全幅 42 m

排水量 68200トン

速力 32ノット

兵装

46センチ3連装2基6門

16.5センチ連装砲2基

12.5センチ高角砲4基

20ミリ連装機銃13基

装甲板 420ミリ

乗員 3000名

鬼ヶ島 メリーランド

全長 450m

全幅 49m

排水量 90000トン

速力 27ノット

兵装

50センチ4連装2基8門

25ミリ連装機銃30基

噴進口ケット発射装置2基

強襲上陸用船×10

装甲板 500ミリ

乗員 8500名
内6000名特別陸戦隊

《重巡洋艦》

ワシントン
天海

全長 250m

全幅 38m

排水量 68800トン

速力 40ノット

兵装

40センチ2連装2基4門
14センチ高角砲4基
20ミリ連装機銃15基

装甲板 380ミリ

乗員 2600名

シアトル
天牙

全長 255m

全幅 40 m

排水量 68900トン

速力 35ノット

兵装

40センチ3連装2基6門

13センチ高角砲3基

20ミリ連装機銃20基

噴進ロケット発射装置1基

装甲板 400ミリ

乗員 2400名

搭載機 2機《空母》

双龍（エンタープライズ+レキシントン）

全長 270 m x 2

全幅 50 m x 2

速力 34ノット

排水量 100000トン

兵装 13.5センチ高角砲8基

30ミリ連装機銃60基

飛行板 300m x 2各艦二段方式

搭載機 250機

乗員 5500名

オクラハマ
天龍

全長 250m

飛行板 280m

全幅 45m

排水量 80000トン

速力 38ノット

兵装

16センチ高角砲4基

20ミリ連装機銃40基

装甲板 280ミリ

搭載機 100機

乗員 4000名

《駆逐艦》

全て統一悪しからず、M() M<

全長 80 m

全幅 38 m

排水量 5000トン

速力 50ノット

兵装

15・5センチ2連装2基4門

30ミリ連装機銃20基

魚雷発射管4連装2基

装甲板220ミリ

乗員100名

《新型艦》

〔戦艦〕

神月二番艦

神陽

全長 300 m

全幅 50 m

排水量 89000トン

速力 40ノット

兵装

55センチ4連装4基16門

25センチ連装砲2基6門

15センチ高角砲6基

30ミリ連装機銃40基

装甲板 520ミリ

乗員 3600名

搭載機 3機

〔空母〕

赤城二番艦

赤龍

全長 245 m

全幅 50 m

飛行板 260 m 2段方式

速力 37ノット

排水量 80000トン

兵装

16センチ高角砲4基

30ミリ連装機銃40基

装甲板 310ミリ

乗員 4000名

搭載機 120機

《大和型戦艦空母》

大和

全長400m

飛行板V字型 160m×2

全幅 54m

速力 43ノット

兵装

20センチ高角砲4基

35ミリ連装機銃50基
52センチ4連装2基8門

装甲板550ミリ

乗員5500名

搭載機 80機

という感じに竣工しました！

帝国海軍艦隊数は戦艦11隻重巡7・軽巡10・空母17・駆逐艦
170・潜水艦350隻の艦隊で所有航空機は1270機の空母航
空隊と決戦のハワイと米国本土の間の海域付近はミッドウェー航空
隊4000機真珠湾航空隊8000機合計13270機のだい航空
機隊で万全の布陣を作り挙げていた…

第十一話 新艦隊（後書き）

次回は四カ国軍事同盟がわの戦力を伝えます 〓（；）

第十二話 四カ国連合艦隊

12月3日西海岸軍港

「いよいよあの忌まわしき猿との大戦の時がせまっておるの！しかし始めは不安だらけの艦隊再建の計画だったが人はヤル気になればこの短期でここまでヤレルんだな」

そう新四カ国連合艦隊の旗艦「リパルス二世」に座乗しているフィリップス大将が話していると後ろから声を掛けられた…

「どうだね四カ国連合艦隊は？素晴らしいね！この艦隊があればいくらジャップが新型艦をだしてきても勝てる気がしてきたよ（笑）」
ルーズベルトはフィリップスにこう話すとヒクソンやヒトラーを集め艦隊について説明をした…

それがこれである…

作者「簡単になりますがお許しを 〓 (; (」

戦艦 20 重巡 15 軽巡 10

空母 15 駆逐艦 350 潜水艦 70

「後はだな占領部隊として海兵隊六個師団 歩兵五個師団 総勢40万人を準備し我々本体の後方よりくる！」

潜水艦がすくなくなつたがこれはヒトラーが本来の任務についてい

る潜水艦は割けないとの事で少なくなりました…

続いて四カ国連合艦隊の総合参謀長のマイケル中將が説明を開始した…

「次に航空機だが…

空母航空隊は総勢3000機　あとは陸軍の爆撃隊が本土より5000機やつてくるがジャップよりおそらく少ない…その理由はミッドウエー及びハワイを占領されたからだ…可能なら近隣のアメリカ占領基地から出すが期待はせんでくれ…」

そして説明がおわり次に四カ国連合艦隊の司令官キング大將が話を始めた…！

「次に作戦だがまず明日の朝0700をもって出港し進路をハワイにむけ進む！そしてそしてまずはハワイ及びミッドウエーを占領し一気に日本本土へと向かう！なお敵戦闘機及び敵艦隊を発見したら直ちに交戦殲滅せよ！今回は小細工的な作戦はない！ただ敵艦隊を殲滅し世界からサルを皆殺しにするだけだ！以上！」

キング大將の力の籠った話を聞き幹部を含め四カ国の大統領たちは立ち込める感情を必死に抑えていた…

そうして動きだした二つの連合艦隊…あの時動きだした歯車は二つの連合艦隊になにをさせたいのか…

そしてルーズベルトは会議終了後作戦本部長のニミッツ大将と何やら会話をしていた…

「ニミッツ…例の計画は実行段階にあるのか？」

「はい…大統領昨日全てのチェックを完了致しました！何時でも可能です…！」
「それは良かった！どうも四カ国連合艦隊は確かに数は揃えたが信用性が薄い…」

するとニミッツ大将は…

「大統領の言うとおりです…ジャップは底知れぬ力をもっておりま
す…このまま勝負を挑んでも勝てる可能性は…」

「その先はいい…かりに無くともこれで全てを終わらせる…いいか
ニミッツ決してバレルでないぞ…！結構時期については私から直接
連絡をする！ではよろしく頼むよ…」

そういつて二人は散った…

果たしてこの会話にあった作戦とはいったい何なのか！！

二つの連合艦隊は何も知る良しもなく決戦の地へ駒を進めていった
…最後に帝国海軍の編成を紹介致します> m () m <

《第一艦隊》山本 五十六大将

〔戦艦〕

神月

神陽

鬼怒
鬼島

〔重巡〕

筑波

五月雨

天海

〔空母〕

瑞鶴

赤城

加賀

〔軽空母〕

信濃川

吉野川

他駆逐艦30隻タンカー110隻

《第二艦隊》南雲 忠一中将

〔戦艦〕

榛名

金剛

鹿島

三月

扶桑

〔重巡〕

松尾

〔軽巡〕

夏風

照美

照海

〔軽空母〕

神海

春馬

他は駆逐艦30隻タンカー120隻

《第一航空艦隊》山口 多聞中将

〔戦艦〕

鬼ヶ島

〔戦艦空母〕

大和

〔重巡〕

松島

愛宕

〔空母〕

瑞龍

炎龍

双龍
天龍
赤龍

〔輕空母〕

桜月
三河
矯風

他は駆逐艦15隻タンカー30隻

《第一水雷戦隊》関根 剛少将

〔重巡〕

鳥海
天牙

駆逐艦50隻

《潜水艦隊》村田 一也中将

潜水艦350隻

《輸送船団》中畑 義雄中将

輸送船270隻 タンカー90隻駆逐艦48隻

で陸軍部隊は十五軍の二個師団 戦車連隊200両 野砲連隊 歩

兵35連隊総勢55万人である！

第十二話 四方国連合艦隊（後書き）

いよいよ大詰めです）>O>（もうすこしお付き合いを>E（
E
>

第十三話　激突

時は過ぎ...

12月8日ハワイ沖500哩

帝国海軍連合艦隊は12月3日に出港をし四カ国連合艦隊を探して迂回路を取り米国本土に向かっていた...

ここで今回の各艦隊の航路について説明しておこう！

まず第一航空艦隊はミッドウェー方面から関根少将の率いる第一水雷戦隊を率いて米国本土を目指す！そして第一艦隊、第二艦隊は太平洋を真っ直ぐ米国本土へすすみ最終的には挟み撃ちにする計画である...潜水艦隊と輸送船団は後方より安全圏を通り進行するのであった...

神月艦橋

「ヤケに霧が出てきているな...少し危険だが索敵機を各艦より出すように命じてくれ！」

すると航空参謀は各艦宛に発光信号で伝えた。

各艦から二式水上戦闘機の改良型の三式水観が飛び立っていった...

山本大将を始め各艦の幹部達は霧が晴れていきなり交戦にならない事を祈っていた...

そのころ四カ国連合艦隊は…

順当に配備を済ましハワイに向かうと見られていた艦隊は米国本土沖に全艦隊を布陣させて完全に待ち伏せ攻撃をとるつもりでいた…すると偵察に出ていたF6F「ヘルキャット」から連絡があつた…

「敵艦隊発見！太平洋方面ヨリ接近中！大型艦13小型艦多数！空母発見デキズ！」

それを聞いた各国の大統領やキング大將は…

「遂にきたか…距離はどのぐらいなんだ？」

キング大將が答えた…

「只今の距離は約250哩です！」

するとヒトラーがいだした…

「230哩なら航空機が出せる！！今すぐ出すべきではないのかね？」

ヒクソンとルーズベルトは首を縦にふりキング大將は答えた…

「解りました…今すぐに航空機を出撃させましょう！」

しかしルーズベルトは心の中で不思議に思っていた…

「仮にも四カ国連合艦隊と決戦をするにあたってジャップもこちらを知っているに違いない…なのに空母を同行させず戦艦部隊でくるつもりなのか？仮にもハワイミッドウェーから来るにして距離があ

るんだぞ…まあいずれにしよ最悪の時はあれを使っしかないか…」

その30分後各空母から日本海軍に向けて航空機が飛び立っていった…総勢3000機である！

その頃連合艦隊旗艦神月では…

「長官！偵察機より入電！《我敵艦隊発見ス！貴艦隊ヨリ距離230哩！ナ才敵艦隊ヨリ航空機発進ヲ確認！》との事です！」

山本大將は答えた…

「いよいよか…よし全艦隊に戦闘配備をしけ！そしてミッドウエー方面の艦隊にも伝えろ！我敵艦隊発見スだと！航空機隊はすぐさま発進させろ！」

それを聞いた通信参謀と航空参謀は慌てて作業にとりかかった…

30分後連合艦隊航空機隊の250機とハワイ航空機隊の半数4000機が出撃した…

「各艦全速前進！」

そして40分後…

連合艦隊旗艦神月艦橋…

「敵艦隊発見！方位50 距離9000！」

連合艦隊が先に肉眼に捉えた！

「全艦隊目的敵艦隊！各個照準！出来次第撃て！」

山本大将の号令で各艦の主砲が旋回を始めた…！

敵機の姿はなかった…上空で我が連合艦隊の攻撃隊たちが奮戦し数で圧倒的な為に米国航空機隊は連合艦隊を攻撃できないでいた…

山本大将が敵艦隊に睨みをきかせていたその時だった！！

ドグア ン ドグア ン

物凄い爆音がいきなりなり始めた！

連合艦隊第一艦隊第二艦隊の艦隊からのまれにみぬ一射目からの総射だった…！

鬼怒の50センチ三連装 鬼島の46センチ三連装 神月の50センチ三連装 神陽の55センチ四連装

そして各艦の40センチ台の主砲が四カ国連合艦隊目掛けて飛んでいったのである…！

そして総本数100以上の魚雷も発射された！

四カ国連合艦隊

「敵艦隊発砲！」

それを聞いたキングは…

「何！いきなり仕掛けてきよったか！各艦に伝えるこちらにも応戦だ
対空戦闘もおこたるな！」

そっぴいひはなつた直後！

ドカン ドカン バシャーン

金属を抉るような振動とともにすぐに各艦を見渡したすると…そこ
へ水兵が報告にきた…！

「命中弾6！一番 二番主砲塔使用不可！ なお魚雷3命中浸水始
まりました！高角機銃左舷壊滅！」

帝国海軍はいきなり命中弾をかました…！

いきなり戦艦2を撃沈 空母4大破の結果だった！

四カ国連合艦隊も応戦するがあたりはず空撃ちに終わっていた…

「何て事だ…一発目から斉射でしかも命中弾だと！一体何がおこっ
たんだ…」四カ国連合艦隊はいきなりの結果に首脳たちは慌ててい
た…

「大丈夫なのか！？ジャップを倒せるのか…！」

そう言っている間に帝国海軍攻撃隊の攻撃が始まった…

「敵機接近！方位左30度仰角120度！撃て！」

ドドドド ドドドド

各艦の対空機銃が火を吹いた！

何機は落ちていくがそれでも数で勝っているので躊躇なく向かって魚雷を落とし爆弾を落とししていく！

そうして第一次攻撃隊が去ると同時に第二射を帝国海軍が放った…！

そして二時間後…

四カ国連合艦隊は空母を全て失った…戦艦は18隻撃沈

駆逐艦は全滅…航空機は壊滅した…

日本側は損害艦無し航空機は出撃4250機の内112機を無くした…

しかし四カ国連合艦隊はまだ帝国海軍のミッドウェー方面の艦隊をしらないのであった…

四カ国連合艦隊は壊滅したのである…

そのころルーズベルトは一足先に海軍省のニミッツ大将の元へ来ていた…

「ニミッツ！すぐに例の作戦を結構しろ！四カ国連合艦隊は壊滅した…」

するとニミッツ大将は…

「やはりそうでしたか…解りました…例の作戦を開始します…」

そうして二人やり取りがおわると作戦は開始された…

四カ国連合艦隊と帝国海軍連合艦隊を破滅に導くかもしれない運命の時間が刻一刻と近づいていた…

ニミッツとルーズベルトの謀略にどう立ち向かうのか！

第十三話 激突（後書き）

次回をお楽しみに（＾○＾）

番外編（前書き）

航空機を国別に紹介します（＾Ｏ＾）

番外編

さあ〜てこの辺で戦闘機の紹介したいと思います

作者「手短に致しますので見てやってください」

「

まずは帝国海軍からいきますよ

《零戦》60型

全幅 11m

全長 9.05m

全高 3.509m

発動機 中島「栄」30型

速度 600キロ

航続距離 3000キロ 増曹4000キロ

兵装

30ミリ機銃×4 爆弾25番×1

60番×2

《三式水上観測機》

全幅 12.00m

全長 10.13m

全高 4.305m

発動機 中島「栄」21型

速度 500キロ

航続距離 1800キロ

兵装

25ミリ機銃×4 60キ口爆弾×2

《艦上戦闘機》(烈風改) 全幅14.00m

全長11.00m

全高4.30m

発動機 三菱八45 30

速度640キ口

航続距離5000キ口 タンク7000キ口兵装

30ミリ機銃×4

噴進口ケット×8

胴体下25番×1

《百式艦上爆撃機》

全幅 12.05m

全長 9.700m

発動機 中島「奮」30型

速度 625キ口

航続距離 2000キ口

兵装30ミリ機銃×2 17.7ミリ機銃×2

魚雷×1 60キ口爆弾×2

乗員2名

番外編（後書き）

申し訳ありませんが何回かに分けて紹介致します。> m () m <
次回ミッドウエー　ハワイの陸軍基地航空隊です

番外編 2

次にミッドウエー及びハワイの基地航空機隊陸軍編です（^o^）

《三式複座戦闘機（曇龍）》

全幅 16.50 m
全長 13.05 m
発動機 三菱八三〇
速度 1200馬力×2
航続距離 2500キロ
兵装

20ミリ機銃×2 12.7ミリ機銃×2 25番×2

《六式戦闘機（真龍）》

全幅 13.00 m
全長 9.30 m
発動機 2000馬力
速度 630キロ
航続距離 1700キロ
兵装
20ミリ機銃×4
60キロ×2

《四式戦闘機（真炎）》

全幅 13.50 m

全長 9・00m

発動機 川崎ナ50

速度 650キロ

航続距離 1900キロ

兵装

20ミリ機銃×2 ロケット×6

とあくまでも空想ですので =) ∴)

番外編2 (後書き)

次回は続きのストーリーをかきます(^ o ^)

第十四話 命運（前書き）

ついに姿を現した米国の最終兵器！帝国海軍はどつ立ち向かうのか！

第十四話 命運

ホワイトハウス

ホワイトハウスの大統領執務室にはイギリス、フランス、ドイツの大統領の姿は無かった。敗北を前にして三カ国の大統領は座乗した戦艦より大統領自ら降伏していた。

その頃ルーズベルトとニミッツ大將は：

「糞！ジャップの一体何処にこれ程の力があつたのか想像がつかん！ニミッツ！あとどれぐらいで準備は整うのだ？あとジャップの動きもしりたい！」

するとニミッツ大將はルーズベルトに報告を始めた：

「例の作戦でしたら発動致しましたのでもう間もなくジャップに接近すると思われます！しかし良いのですか？まだあの海域には四カ国連合艦隊の残存艦艇と三カ国の大統領がいますが…」

「良いのだニミッツよ！もはやこのままにしておくわけにはいかん！！ジャップに降伏したやつなど放っておけ！」

それを聞いたニミッツ大將は軽く返事をして報告を続けた：

「次にジャップの動きですが…ジャップの陸軍部隊が西海岸より上陸を始めた模様です！海兵隊を当てていますがジャップの艦隊からの艦砲射撃により苦戦しているようです！」

「それはいかな…一刻も早くあれで何とか手をうたんと白人の国に猿の旗色を掲げる訳にはいかな！」

そうして会話をしていると一つの報告が入ってきた…

「敵艦隊発見…！」

ルーズベルトは力一杯に即座に攻撃を命じた…

神月艦橋

「報告致します！神月より距離50キロの位置に艦影を発見！数5！」

すると山本大將は…

「まだ生き残りが居たのか！陸軍部隊の揚陸を邪魔されてはイカン！揚陸護衛に駆逐艦及び潜水艦を残し残りは敵艦に迎え！」

すると神陽を先頭に単縦陣で向かった…

「まだ生き残りが居たとはなかなかしぶとい…！」

そう山本大將が呟くと帝国海軍連合艦隊の目の前に飛んでもなく巨大な艦艇が姿を現した…！

「何なんだあれは…！」

皆がそう呟くといきなり轟音が響いた！

「敵艦発砲！来ます！！」

「何だと！取り舵一杯！」

艦長が叫んだが敵艦隊との距離が余りにも近すぎたため…

ドカン ドカン ドカン バシャーン

山本を始め参謀達が顔を上げると信じられない光景が広がっていた…！

「何だこれは一体！どうなっているんだ！被害報告をしろ！！」

艦長が叫んだ…！

無理も無かった…一回目の敵艦の発砲で神月を始め連合艦隊は黒煙に包まれていた…しかも目の前には艦隊と言うには余りにも大きく山脈が目の前に広がっている用であった…

目の前の光景に皆が啞然としていると通信参謀から被害報告が読み上げられた…

「只今の敵艦の発砲で連合艦隊の被害は戦艦金剛・鹿島、三月、鬼怒撃沈！重巡壊滅軽巡壊滅！空母は無事です！」

「何だと！そんな馬鹿な！一回目の発砲で何故戦艦が沈んだんだ！ええいこちらも応戦だ！各個照準で撃ちまくるんだ！」

山本大將は息を荒げて命じた…！

そうして居る間にも二回目の発砲が始まった…

「何としても回避しろ！駆逐艦も潜水艦も呼び寄せて魚雷発射を命じろ！」

謎の米国艦隊は連合艦隊を恐怖に陥れた…

航空機をだしたが不発に終り逆に撃墜されていった…

山本大將が困り果てていると三カ国大統領を乗せている神月の艦橋に水兵が上がってきて山本大將に伝えた…

「長官！大統領達が山本大將と話がしたいそうです！」

「何！？分かった直ぐ行く！」

そうして山本大將と三カ国の大統領との話が始まった…！

「ミスターヤマモト我々は日本に降伏し同盟を結びたい！」

いきなりの申し出に山本大將と関本大佐は驚いた！

「一体どうされたのだ？宜しければ理由を聞きたい！」

するとヒトラーが代表で話すと言うので聞き始めた…

「我々は米国に荷担し日本を倒そうとした…しかし我々は現に我々が居るのを知っていないながら米国の国旗を掲げる艦艇が攻撃してきている！我々はこれを同盟国に対する宣戦布告ととり戦闘中の帝国海軍連合艦隊と協力し米国を滅ぼしたいと考えている！もちろんこの開戦だけではなく多方面に展開中の米国部隊に対する攻撃も協力したい！ともに世界の平和を築いてくれ！頼む！」

それを聞いた山本長官は…「頭を挙げて下さい！貴方達は捕虜になつても一国の主ですぞ！その主から頭を下げられて断るようなら帝国海軍及び日本そして山本の名がすたりますわい！ワハハハハ（笑）」

そして皆はガツチリと手を交わし打倒米国と燃えたぎっていた…

「さっそくなんですがお願ひがあります…」

山本がそう言い出すとヒトラーが答えた…

「我々は同盟国だなんなりと言つてくれ！」「では…さっそくなのですが元四カ国連合艦隊の残存艦艇を士気をしていただきたい！我々は悪までも陸軍部隊を守りあの巨大戦艦を撃沈しルーズベルトの首をとるつもりです！」

「任せてくれ！力をかす！あのルーズベルトに一泡吹かせてやろうでわないか！」

帝国海軍の士気は一気にたかまった！

ホワイトハウス

「大統領！成功です！ジャップは戦艦をいきなりやられて慌てていきます！」

「そうか！よくやった！このまま一気に帝国海軍を壊滅し世界を手にとるぞ！」

ルーズベルトとニミッツ大將は浮かれていた…

西海岸沖では変わらず砲撃戦が続いていた…

ドンドン…ドンドン

ヒュルヒュル…ドカン！

帝国海軍もひけをとらずに砲撃を浴びせている！

くそ航空機さえあれば…

上空から狙えるのに海からでは決定打にかける！

「長官！駆逐艦及び潜水艦隊魚雷発射準備完了！」

山本長官は待っていましたと言わんばかりに発射を命じた！

そう本数300以上の魚雷が巨大戦艦に向けて放たれた皆の想いが籠った魚雷は次々と巨大戦艦に命中した！

それと同時に待ちわびていた知らせがきた…！

「第一航空艦隊航空機発進可能海域に到着！発進許可を待っています！」

山本長官はここぞとばかりに指示をだした！

「四カ国連合艦隊残存艦艇及び帝国海軍連合艦隊潜水艦隊一斉に砲雷撃開始！第一航空艦隊は全機発艦！巨大戦艦を攻撃せよ！」

山本の一声で各艦の50センチを超える巨砲40センチ台の主砲第2波の魚雷群そして攻撃隊総勢8000機以上が壮大な攻撃を開始した！！

第十四話 命運（後書き）

少し長くなりすぎたので2話に分けて載せます。M（――）M<

第十五話 合衆国の選択

遂に始まった連合艦隊総力を挙げての巨大戦艦攻撃作戦！！

「発射準備全艦隊完了！魚雷発射準備完了致しました！航空機隊は…今到着致しました！」

参謀長の方位を聞いた山本長官はここぞとばかりに命令をだした…！

「第一艦隊及び四カ国連合艦隊残存艦艇は敵一番艦二番艦！ 第一航空艦隊第二艦隊敵三番艦及び四番艦！ 水雷戦隊及び潜水艦隊敵五番艦に砲雷撃開始！！」

山本長官の命令を皮切りに当たりに轟音が鳴り響いた…

各艦から発射された砲弾・魚雷及び爆弾は米国巨大戦艦に吸い込まれるように命中弾をだした！

山本長官はなおも砲雷撃を命じた！

山本長官「確かに巨大な敵だがあれほどのがでかいと外れる心配もないの！よぉくし敵に打たせるなよ！装填出来次第撃て！航空機隊は可能な限り機銃掃討をし帰還せよ！」

山本長官の命令は直ぐ様伝えられしばらくの沈黙のあと第2射が放たれた！

相互に被害はでていたが流石の巨大戦艦も防御は固いが数が多すぎた
見た目で所々で火災がおき始めていた…しかし撃沈にはまだ遠い…

神月艦橋

「どうしたらいいんだ…ダメージは確実に与えているが…！！
んそうだ！」

山本長官は何か思い付くと関本大佐を呼び寄せて命令をだした！

「関本大佐よ！至急陸軍部隊の山下司令官に連絡し特殊攻撃隊を結
成し準備できしだい駆逐艦に連合艦隊が援護するので巨大戦艦に乗
り込んでくれ！！」

その後に山本は付け加え…

「連合艦隊及び残存艦艇は巨大戦艦の底付近を集中的に狙え！特殊
攻撃隊が乗り込む穴をあけるんだ！！」

それを聞いた関本大佐は通信兵に伝えた…

西海岸アメリカ占領部隊指令部

山下司令官「なんとか上陸できな…しかし何なんだあの巨大戦艦
は…」

すると通信参謀が山下司令官の元へやってきて電報を読み上げた…

「只今山本長官からの連絡で陸軍部隊は特殊攻撃隊を編成し連合艦

隊の援護の元米国巨大戦艦に侵入し占領していただきたい！！なお突撃路は連合艦隊が責任をもって開く！！との事です！」

その報告を聞いた山下司令官は…

「全く山本大将も突発的に言い寄る！しかし万が一あの巨大戦艦が陸軍部隊に砲撃を開始したらまずいな…それに陸軍部隊が海軍艦艇を占領するのもおつな話だしなやるか！！おい！参謀長直ぐ様特殊攻撃隊を編成し巨大戦艦を占領させる！」「ハッ！直ぐ様とりかかります！」

西海岸沖

激しく戦闘中であつた…

各艦かなりのダメージを喰らってはいるが兵士達の士気は上がる一方で巨大戦艦に陸軍部隊の突撃路を開くため必死に攻撃を仕掛けている！

ドカンドカン！バシャーン！

巨大戦艦の五隻全てに鈍い金属音がした！

「報告！巨大戦艦に穴開きました！突撃可能です！」

山本が報告を聞いていると陸軍部隊を乗せた駆逐艦数隻が巨大戦艦に向かって見えた！

「あれは駆逐艦！山下司令官やつてくれたんだな！」

よし連合艦隊もこうしてはおれぬ！各艦に伝える！何が何でも陸軍部隊を守れ弾尽きるまで撃ちまくるんだ！」

その15分後…

特殊攻撃隊隊長の川中中佐は巨大戦艦を目の前にして騒然としていた…

「隊長！各艦突撃路に到着！突撃準備完了しました！」

その報告をきいた川中隊長は…

「よし！全部隊に報告！突撃せよだ！」

その言葉を聞いた各部隊はそれぞれに突撃していった！各艦150名でる！

神月艦橋

「特殊攻撃隊無事突撃路より潜入完了！」

それを聞いた山本長官は特殊攻撃隊の武運を祈る他なかった…

「頼んだぞ…」

その頃巨大戦艦内部では予想された通り戦闘状態になっていた…！

ババババ！ババババ！

「怯むな行け！行け！」

古参兵が叫ぶ！

「突撃だ！帝国軍人の魂をアメ公に見せてやれ！」

特殊攻撃隊の勢いは衰えるところを知らなかった！米国兵は次第に弱体化していき特殊攻撃隊はついに最後の艦橋の扉の前に到着した…
「よし！何とか辿りついたな…行くか！爆薬セット！皆離れる！」

ドカァーン！！

艦橋の扉が破壊されたのと同時に特殊攻撃隊が雪崩れこんだ！が…
！そこに居たのは航海士のみで残りの兵士は全機関を停止させた後自決していた…

「ばかやろう…死ぬ事はなかったんだよ…」

川中隊長は胸の中で何とも言えない感情だけが残っていた…

神月艦橋

山本が悲痛な想いでいると通信参謀長が山本長官の元へやってきて電報を読み始めた…！

「特殊攻撃隊より《我巨大戦艦ノ占領ニ成功セリ》との事です！」

艦橋は歓声にわき返った…

こうして巨大戦艦は無事占領した…

山本長官は一人呟いた…

「あとは米国本土か…」こうして世界の名だたる海軍達の大海戦は終焉を迎えた…

この情報を聞いたルーズベルト大統領は悪までも本土での決戦を主張し全ての陸軍部隊を導入し帝国陸軍との決戦に備えた！

一方で西海岸を占領し順当にワシントンに進軍中であつた帝国陸軍部隊は一次西海岸に籠り補給線の確保にはいつた…

なお帝国海軍では巨大戦艦をハワイに持ち帰り新たなる兵器として改良型を作る計画を準備していた…

ホワイトハウス

「巨大戦艦を取られたのは痛かつたな…陸軍総長を呼んでくれ！」

するとすぐに陸軍総長であるスミス陸軍大將が訪れた…

「スミスすまないが今動かせる陸軍部隊はどれぐらいだ？」

スミスは素早く答えた！

「今現在実働可能な陸軍部隊は約50人であります！」

「わかつた…ニミッツ輸送船で多方面に展開中の陸軍部隊は呼び寄せるのは可能か？」

ルーズベルトは諦めたような感じでニミッツ大将に聞いた：

「現在は不可能です輸送船を出せたとしても護衛艦が一隻も居ません…米国は海軍を完全に失いました…」
するとスミス大将が続けて報告を始めた：

「展開中の米国部隊ですが…各地で同盟国であったフランス、イギリス、ドイツの反抗により壊滅状態にあります…ですから米国は本土のみでの戦闘になります…」

ルーズベルト達は落胆した…

そしてルーズベルトは一つの答えをだした…！

「皆の報告は良く分かった…もうこの辺が潮時かもしれん…これ以上犠牲出さないためにも降伏しよう…米国は長い歴史の中でこれほどの絶望を味わった事はなかった…しかし米国は必ず独立し再び戦う事を誓う！負けて学ぶ以外にあるまい…」

そしてその1時間後…ホワイトハウスより降伏電報が届いた…

米国は占領され日本の旗が掲げられた…しかし日本は米国を独自国家として存在を認めた…国連の監視の元だが…この後日本は大発展をし資源も豊かになった…

第十五話 合衆国の選択（後書き）

まだ少し続きますので宜しければよろしくお願いいたします。> m)
——) m ^ m

巨大戦艦（前書き）

あくまでも空想ですので（――）

巨大戦艦

帝国海軍所属巨大戦艦

《冰山》

全長 1250m

全幅 500m

排水量 80万トン

速力 27ノット

装甲板 600ミリ

兵器

46センチ三連装×8基24門

25.5センチ二連装×20基

13センチ高角砲×30

20ミリ連装機銃×200

上陸船×200

(戦車なら3000両)

乗員12000名

巨大戦艦改造型双胴空母

《大蛇》

全長 1150m

全幅 500m

飛行板 1000m

排水量 86万トン

速力 25ノット

兵器

20センチ高角砲×100

30ミリ連装機銃×250

40センチ二連装×4基

搭載機 1500機

乗員10000名

巨大戦艦（後書き）

今後ともお願いいたします。> m () m <

最終章 新世界

太平洋戦争が集結し世界は一つになった…

日本はルーズベルトに引き続き米国大統領としての身分をあたえ八ワイとミッドウエーを変換そして米国は再び独立した…

日本ではまず各国との平和条約を結びこれを《世界平和友好条約》と呼び米国や日本を始め共存協力するという世界規模の条約であった…

まだそれに反対する武装組織は点在するが各国協力のも対応している。まだまだ世界には問題は残るが各種民族同士の血肉の争いは消えた…

そして今2010年あの時の条約は今でも守られまた世界平和に対する意味をそれぞれの民族が心に深く刻みこまれている！

過去の英雄は今でも世界平和の為に戦った英雄としてたたえられまた同時に太平洋戦争を渡りあるいた兵器や艦隊は平和維持の為に国を問わずまだ点在する海賊や武装組織から人々を守る為に近代改装されても活躍しているのであった！

作者執務室

作者「いやあ、山本長官を始め本当にお疲れさまでした！一次はどうなるとおもいましたが何とか第一作目を終える事ができました！」

山本長官「うむ！本当にご苦労であった！日本は安泰を約束された

そして民族は一つになった！これ以上に喜ばしい事はないな！（笑）
」

ルーズベルト「まんまと作者にやられたよ（笑）しかし占領されて
なお独立を認めた作者はよくわからんよ（笑）」

作者「ただ平和がほしかったんですよ（笑）」

山本長官「それはそうと本作品中いろいろアドバイスをくれた読者
や読んでくれた読者には感謝せねばな（笑）特に危ないなか神月艦
橋でもに見てくれた大和さんやとねさんには一番感謝だな（笑）」

作者「確かに助けられるばかりでしたからね（汗）お礼をいいまし
ようか！」

総勢「読者のみなさんそしてとねさんに大和さん本当にありがとう
ございました……！！！！！！！！！！」

最終章 新世界（後書き）

初めてで失敗ばかりでしたが読んで頂き誠にありがとうございました！

本当に感謝しております > m () m <

次回作もすぐ書く予定なので宜しければよろしくお願いいたします

> m () m <

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0586o/>

幻夢新大東亜戦争

2010年10月19日05時05分発行